

Shokei News

発行

茨城県立土浦第二高等学校尚綱同窓会
〒300-0041 茨城県土浦市立田町9番6号
TEL. 029-822-5027(代)
FAX. 029-826-3522
http://www.tsuchiura2-h.ed.jp

印刷 株式会社 サラト

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL. 079-284-1380
http://www.salat.co.jp/



総会のお知らせ

平成25年度尚綱同窓会総会を開催します。

日時 平成25年6月1日(土)

時間(日程)

- 12:30 受け付け開始
- 13:00~13:40 尚綱同窓会総会
- 13:40~13:50 記念撮影
- 14:00~15:00
 - A、R、C コンサート
(ア、エレ、セ)… スペイン語です。
(ひばり、バラ、梅)
 - 曲 アルゼンチンタンゴ 他
 - 帝 鵬(ていほう) 氏 (バンドネオン)
 - 山下亮江(やましたあきえ) 氏 (ヴォーカル)
 - 角 圭司(すみけいし) 氏 (ギター)
- 15:00~16:00
ワンコイン(500円)で懇親会

会場 ホテルマロウド筑波

〒300-0042 茨城県土浦市城北町2-24
TEL: 029-822-3000 FAX: 029-822-3244
JR常磐線 土浦駅西口より徒歩約15分



二つの言葉

想定外と準備

会長 佐賀 久枝



私は18年間同窓会の会長を務めさせていたれておりますが、この18年という時間が過ぎゆく間に日本と世界を揺るがす大きな出来事が

いくつも起こりました。

バブル崩壊、阪神淡路大震災、アフガンイラク戦争、リーマンショックそして東日本大震災と原子力発電所爆発事故、この困難に伴い、数十万の人々が故郷を追われ避難生活を今もお送っております。

こうした出来事は何の脈絡もなく突然私たちの生活に襲い掛かり、政治経済社会生活を根底から揺るがす出来事です。

そして、こうした出来事を今は一つの言葉で表すようになっていきます。

「想定外」

人知の及ばぬ力が働き、どうにもならず、人間の力の限界を改めて思い知らされ、戸惑いを表しているような言葉です。

実は私が生まれて今日に至るまでの時の流れも、想定外の出来事に翻弄されてきたようにも思えます。

何しろ若い人には信じられないことですが、私が幼かったとき、ヨーロッパ大陸はヒットラーの狂気が何もかもを破壊しつくそうとしておりました。日本は、ドイツ・イタリアと軍事同盟を結び、アメリカとの大戦争に突入しました。当時、3歳ほどだった私は、夜になると荷車の上に家財を積んで、空襲を逃れて真鍋の坂の上に逃げ、夜空をアメリカ軍の爆撃機が飛んでいくのを震えながら見ていました。

ところが、想定外の事が起こりました。

原子爆弾が広島・長崎に投下された後、日本は無条件降伏し、これからどんな地獄が待っているのかと子供心に死ぬほど恐れていました。それこそ信じられない夢のような時代が来たのです。自由でした。

それまでは兄や姉は英語の本を読んでいたため警察に捕まるぞと恐れ、実際、外国の言葉を喋ったために留置所で五本の指に針を刺されて拷問された中学生

もおりました。でも一夜明けたら、そんな世界はどこにもありませんでした。

大人も子供も老人も、信じられないようなウキウキとした自由な平等な世界に夢うつつととなって、戦争に負けた苦しさなど何でもないかのように思えてしまったのです。

それから先も次々と想定外の時代が続きました。

無条件降伏して全てを失った日本が、20年も経たないうちに経済大国となり、オリンピックを開催し、万国博覧会を成功させ、世界第二位の経済大国になったのです。奇跡でした。世界のどれほどの偉大な学者も予想することのできない新しい日本が誕生したのでした。

ところが、何ということでしょうか。全く別の想定外が襲ってきました。阪神淡路大震災を境に日本には恐ろしい暗い時代が襲い掛かり、そして一昨年の3月11日に起きた国難の後遺症は、今も人々を苦しめています。

でも私は大きな希望を見ました。それは2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会での日本でした。本田圭佑選手が見事なシュートを決め、デンマーク戦に快勝した時、彼はインタビューでこう言いました。「準備です。私はこの時のために全てを投げ打って準備してきました。これからは僕はもっと高い目標に向かって準備します。」

なんと素晴らしい言葉でしょうか。

もし、政治家や優秀な科学者たちが、この日本を素晴らしい国にしようとして災害に備え、想定外の出来事が起こるかもしれないという強い危機感の上にたつて、これに備える準備をしていたら、国民の苦しみはあるいは全く別のものになっていたかもしれません。

私は想定外の出来事に翻弄されながら、72年間で送ってまいりましたが、これからは、残された人生をしっかりと準備して生きていくつもりです。

若い方々も、どうぞこれまでの時代に流行った弁解がましい「想定外」という言葉を捨てて、あらゆるものに立ち向かえる力を養うための「準備」をしなごう。これからの時代を生きてほしいと願います。

ご挨拶

校長 加藤 路子



尚綱同窓会の皆様方には、日頃より母校の教育活動にご理解とご支援を賜っておりまして、心より御礼申し上げます。

私は、平成23年4月1日付けで本校第37代校長として赴任いたしました。この年の尚綱同窓会総会は、東日本大震災の影響で開催することができませんでした。震災やその後の竜巻で被害を受けた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、私自身が尚綱同窓会会員の一人で、恩師の依頼を受けて「ジョーケイニュース第五号」に寄稿させていただいております。初めて校長として赴任した学校での始業式講話の原稿です。熱心で人間味溢れる先生方と、何事にも一所懸命に取り組み個性豊かな友人達のお蔭で、この土浦二高で充実した高校生生活を送りました。その高校生活がこれまでの生き方の基礎になっていることを実感していただきました。で、私自身の高校時代のことを題材にした講話です。原稿をお送りした時には、母校の校長として勤務するとは思ってもありませんでしたから、赴任してジョーケイニュースを手にしたときは、恥じ入るとともに重い責任を感じました。

約40年の歳月を経て母校に戻ってみますと、校舎は県内随一のモダンで立派な建物に変わり、男子も約半数在籍するなど、その変わり様は著しいものでした。しかしながら、生徒の気質は当時に通じるものがありました。校訓は「あかく、ゆかしく、和やかに」から「明・悠・和」と変わりましたが、心豊かでバランスの良い生徒集団に変わりはなかったのです。本校は、平成25年度に創立110周年を迎えますが、同窓会をはじめPTAや地域の皆様のご支援をいただき、熱心な教師と素直な

生徒からなる集団は、素晴らしい躍進を遂げております。目指す学校像を「豊かな人間性、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断力・行動力を有し、変化の激しい社会に心豊かにたくましく生きる人材を育成する教育活動を通して、魅力と活力ある学校を目指す」とし、「個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校」「豊かな感性や道徳的実践力を高める学校」「保護者や地域に信頼される開かれた学校」の3点を柱に据え、教育活動を展開しております。ほぼ全員の生徒が四年制大学進学を希望していますが、今日、大学を卒業しても就職しているのは約6割、更に上級学校に進学している人は1割強ですから、約3割が定職に就いていないこととなります。その上、大卒で就職しても3年以内で離職する者が約3割ですから、人間性を高めるとともに、高校までのキャリア教育が重要になります。本校は、部活など授業以外の活動も活発で、部活動加入率は約8割です。高い目標をもって熱心に活動し、いくつかの部は全国大会や関東大会出場の実績を挙げています。大学企業訪問やキャリアガイダンス、ワンデーカレッジや卒業生を囲む会など、教員が工夫しながらキャリア教育にも熱心に取り組み、進学実績も伸ばしています。今後は、より一層学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善によって、国際社会をより逞しく豊かに生きる基盤づくりに努めていく必要があります。

校長として母校に勤務し約2年が経ちますが、同窓会やPTAの皆様からの温かいご支援に、感謝の念でいっぱいでございます。今後とも精一杯精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、尚綱同窓会のますますのご発展と会員の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

卒業生との再会と回顧

山野 貴子 (旧職員)

卒業生花は葉に実に五十路坂
平成24年10月、卒業(昭和51年)後
36年振りの同窓会に招かれ、期待と高
揚感を抱き出掛けた。

歓声と歓喜の中での再会、感無量であつた。彼女達も55歳となり、社会的にも中堅として重責を担っているの、自信と品格に満ち、眩いばかりの淑女に変貌していた。異なる時間を歩んだ36年間に一気に巻き戻してくれる場所となつた。欠席者に思いを馳せながら、懐しくも幸せな一時を過ごした。3年7組の皆さんに謝意を表したい。

顧みると、当時の二高は全校36クラス、県下有数を誇るマンモス高であつたが、熱意と向学心旺盛な風風に満ちていた。高成長時代、施設等の環境にも恵まれ、バランスの取れたカリキュラムを修得し、英知や人間性を練磨できた、良き高校時代ではなかったか、と思う。

高校2年(昭和49年)第29回「茨城国体」のマスゲームに全員が参加、集団演技練習が、学年を跨いで8回にも及んだ。体育の先生方や学年主任の藤田静男先生のご尽力の程が偲ばれた。この貴重な体験の成果は学習を始め、共同宿泊学習、校内水泳大会等にも遺憾なく発揮され、積極性、協調性に富

む学年となつた。

心温まるエピソードとしては、浅野りえさんが自邸からバラの花を持参し、教卓上に飾ってくれたり、冬休み拙宅へ2・3人で遊びに訪れ、炬燵の中でお喋りに興じたり、兔に角、明朗活発なクラスであつた。授業態度も真摯で好感が持てた。国語は教師の人間性が顕著に出る教科なので、拙い授業を看破されていたのではないかと、今でも赤面の至りである。

私は間もなく、光輝高齢者の仲間入りをするが、現在は詩吟、コーラス、俳句等を楽しく学んでいる。社会との接点を保ちながら、閉塞感漂う、この難時代を乗り切りたいものである。

私にとって二高は母校でもあり、長年の勤務で多くの卒業生、先生方、保護者の皆様にお世話になり、感慨もひとしおである。お礼と感謝の意を申し上げます。

最後に尚絅同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を衷心より切に祈念申し上げる次第である。



昭和五十一年卒

三年七組クラス会開催

福田 和美 (昭和51年卒)

今年十月十四日、つくば市オークラフロンティアホテルつくばにて、卒業して三十数年ぶりのクラス会を開催しました。

当時クラス担任だった山野貴子先生をお迎えして、出席者も二十六名と盛況でした。

山野先生は、お年を召しても気高く美しく、ご挨拶されていた時、二高の教室で教壇に立つて国語の授業をされているお姿が思い出されました。

私達の学年は、昭和四十九年に茨城国体が開催され、その中でのマスゲームに県内の高校生として参加しました。マスゲームの練習で体育の時間以外も電車・バスで何回も運動場に通い、本番では全員黄色いレオタードの衣装で踊った記憶は、今でも思い出として心に残っています。

卒業して四半世紀以上、同級生も五十四、五十五才になります。数々の人生経験をしてきた同級生の近況報告には、皆、静かに耳を傾けていました。皆が高校時代にもどった様な楽しい時間はあつたという間に過ぎてしまいました。

最後に先生を囲んで記念撮影をして、



お開きとしました。

今回のクラス会は、私と久保田さんで準備を進めてきました。参加した方から、とても喜んでもらえました。終わってからもちりに在任している方から連絡があり、元気でいることがわかったりと、本当に企画してよかったと思っております。

三十数年ぶりの再会に感謝したいと思ひます。

野球部創部15年を経過しての雑感

前野球部長 深谷 靖

平成9年4月から東日本大震災直後の平成23年3月まで14年間の長きに渡り土浦二高でお世話になりました。この間、たくさんの地域の方々・卒業生の皆さんや保護者の皆様方にご支援を頂戴しながら過ごしてきましたが、東日本大震災により寸断されたライフライン等の影響により、十分な離任のご挨拶も出来ずに大変失礼いたしました。紙面をお借りいたしました、厚く御礼申し上げます。現在は、茨城県教育委員会で、教育行政に携わっております。大震災以降、県内の高等学校の施設等も徐々に復旧してきており、何より地震の起きた時間が、小学生の下校時間であったり、中・高校生の授業時間中でしたが、人的被害が出なかったことが奇跡的でした。土浦二高も、あの時間は6時間目の授業が始まったばかりでした。生徒の皆さんの迅速かつ冷静な行動と、先生方の誘導支援により、最後の生徒が下校した時間は深夜でしたが、その後の教育活動が再開できたことを感謝する次第です。ありがとうございました。

さて、私が土浦二高に赴任した時期は、平成6年度より県教委から鉢田二高・下妻二高とともに男女共学推進校に指定され、入学した男子生徒が初めて卒業した年でした。当時は、1学年普通科9クラス、家政科1クラスの計10クラス、3学年全体で30クラスの県内最大規模の学校でした。当時から比べると、現在は1学年8クラスの計24クラスですが、男子生徒の割合は増えてきていると思います。現在の中学・高校生は、土浦二高は男女共学校として認知されていると思います。平成6年生まれの子は、もう高校卒業する時期ですからね。平成6年度に県教委から指定された3つの学校は、それぞれの地域で女子校としての実績と伝統を兼ね備えていましたが、男女共学校として、部活動や学習進路面で優れた実績を残しております。3つの学校とも男子生徒の活動が中心の野球・サッカーの部活動が（近年は女子サッカーが一躍有名ですが）盛んとなっており、土浦二高では、男女共学後すぐにサッカーの活動が始まりましたが、野球は皆様ご存知のように、校内に硬式野球の出来る環境のグラウンドがなく、また、近隣にも同様の施設がないため創部が見送られていました。しかし、私と同じ年に赴任された、稲垣校長先生・三輪教頭先生・中村教頭先生が野球部を創部する計画をたて、職員会議で紆余曲折しながら平成9年に産声をあげ、関係各位のご配慮により、平成10年に県高野連に加盟登録を認められ、各種大会に参加出来るようになりました。練習グラウンドは、土浦市の総合運動公園予定地としている常名の都和南小学校北側の場所を平日夕方にお借りすることが出来ました。しかしながら、グラウンドとはいえ、ソフトボール用のバックネットと水道の蛇口が1つの環境でした。平成9年の創部時には、校内に指導者はいないので、土浦一高で長年野球部監督をされていた菊池節先生にお願いして部員数14名でした。活動費用もわずかで、菊池先生のご配慮で、常総学院高校野球部からボールやピッチングマシンなどを譲り受けて活動がスタートしました。翌年に塚原勇先生（江戸崎総合高校）が取手松陽高校から赴任し監督となり、現在の指導者である中原先生と坂本先生に引き継ぐまで、野球部長として14年間活動を支援させていただきました。高校野球は、国民的スポーツで周囲からの注目度も高く、後援会組織等が構成され、どの学校でも力を入れて活動しております。その中で、保護者の方々の熱い思いや、選手諸君の強い心でこれまでの活動が出来てきたのではないかと思います。現在は、土浦市のご配慮で練習拠点を佐野子の市民運動広場になっており以前よりは恵まれた環境ですが、その間にも、2度ほど活動の危機が訪れました。1つめは、平成15年秋にグラウンドの倉庫から、金属バットのほとんどを盗まれてしまったことがありました。少ない活動費を工面し購入している備品を盗まれた時には、どうしていいかわかりませんでした。また、その2年後には保護者の方々のご尽力でグラウンドに引いた電線約200mを切り取られ持ち去られるという事件もありませんでした。この2つの盗難事件は、野球部の活動の根拠を揺るがす事態でしたが、学校・土浦二高PTA有志の皆様・父母会の皆様のご尽力で現状に復帰することが出来ました。本当に当時を振り返りますと「感謝」の気持ちでいっぱいです。

辛いことはばかりではなく、うれしくそして奇跡に近いこともありました。それは、選手権県大会（夏の甲子園大会県予選）の第82回大会（平成12年）と第83回大会（平成13年）の2年連続で開会式の選手宣誓の抽選番号を引き当てるといふ偉業を成し遂げました。（おそらく、1万分の1確率だと思います。）選手宣誓は主将がしますが、第82回大会は佐々木主将が、2000年の大会でしたので「二十一世紀へ向かって、その希望の架け橋となるようプレーすることを誓います。」第83回大会は塚原主将が、「FIGHT, FAIR PLAY, FRIENDSHIPを胸に」と英語を交えながら、観衆に語りかけるように宣誓し、2人の個性とチームカラーが一致した宣誓でした。その勇姿は今でも胸に焼き付いています。さらに近年では、大会の中でも注目される選手や、試合後にスポーツ記者に取材をうけ、翌日の新聞に囲み記事で特集される選手もあり、また、大学進学後も野球を続ける選手が出てきていますので、今後も活躍が期待できると思います。

話は変わりますが、高校野球と言えば、夏の大会のスタンドでの応援も、高校生には卒業後も思い出に残る行事であると思います。関東近県を見ますと、学校あけて野球の応援に出向くということをするのが減少傾向となっております。しかし、全校生徒で一喜一憂し、そして校歌を歌うのは、愛校心を育む最大の体験学習だと思います。数年前、夏の大会で勝利した時に、試合を観戦していただいた女子校時代の卒業生の女性が、センターボールにゆっくりとそして風にたひらきながら上がる校旗と球場内に流れる校歌を聴いて、最高に感動したと、満面の笑みを浮かべながら握手を求められたことがありました。改めて、見ている人々に感動を与えそして、自分たちも成長できる場なんだと、身が引き締まる思いをしたのを今でも覚えております。

最後になりますが、これまでもそして現在も他校と比較すれば、決して恵まれた環境ではない土浦二高野球部ですが、創部以来の卒業生も120名を超え、それぞれが地域社会で活躍する姿を見ることができるようになってまいりました。選手やマネージャーの生徒の皆さん・これから土浦二高へ入学して野球をやりたいと考えている中学生の皆さんが、この110年の歴史と伝統を誇る土浦二高と、まだまだ歴史が浅く発展途上の野球部でお互いに刺激を受けながら成長を続け、あのユニホームで決勝戦を戦い、球場全体を沸き上がらせてくれる日が来ることを陰ながら応援していきたいと思っています。また、皆様方には、今後とも土浦二高野球部にご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

*野球部

私たち野球部は、県大会ベスト8以上、最終目標を甲子園出場とし、日々練習に励んでいます。校内のグラウンドは十分な広さがなく、練習環境は他の高校と比べると、決して良いとは言えません。しかし、朝練により他の部活と時間をずらすなど工夫し、坂本先生、中原先生をはじめとする多数の方々の指導支援のもと活動しています。また、数週間に一度外部のトレーナーに選手それぞれの体力に合わせたウエイトや体幹などのトレーニングメニューを教えて頂き、質の高い練習を行えています。

私たちは、全ての部活の中で唯一全校応援してもらおう立場として、学校生活をおるそかにせず、土浦二高野球部としての誇りを持って行動するように心掛けています。

